

# 亀山市青少年育成市民会議による「亀山っ子」市民宣言の策定について

平成20年6月1日

亀山市教育委員会

## 1 策定経緯

亀山市は、かつて、江戸時代に亀山藩が藩校「明倫舎（館）」を建て学問を奨励する中で、学ぶ者と教える者双方の行動規範である二言四句の「『<sup>かんがくめい</sup>勸学銘』①高い志を持った人になろう②読書に親しもう③わがままに打ち克とう④社会のきまりを守ろう」が創られ、武士だけでなく庶民に至ってもその趣旨が浸透し、教育的な価値が高まり今日に至っている、という時代的背景があります。

一方、近年は、青少年の健全育成をめぐる多様な問題が噴出してきております。

このような状況の中で、青少年育成関連団体36組織から構成される亀山市青少年育成市民会議が、かつての藩校の教えをヒントにしながら、今、大人が市内の子どもにどのように育ててほしいか、また、理想とする「亀山市の子ども像」の実現に向けて、大人が何を行うべきかについて、昨年9月に検討委員会を設置し、約6ヶ月にわたって6回の協議を続けてきました。

## 2 「亀山っ子」市民宣言の内容及び採択

検討委員会では、幼稚園や小中学生の子どもを持つ保護者や青少年育成関連団体の代表者等から意見を聴きながら、大人の行動指針となる「子ども像」を作り、それを「6カ条からなる『亀山っ子』市民宣言」とし、去る5月31日に開催されました平成20年度亀山市青少年育成市民会議定期総会の場で採択されました。（内容は裏面）

市民レベルで、目指す「子ども像」を策定し、家庭や地域をはじめ、青少年の育成団体が共通の目標を抱きながら市民総ぐるみで子どもを育成しようとする市民宣言は、県内では初の取り組みとなるものです。

## 3 今後の取組

まず、青少年育成市民会議の4部会（広報部会、育成部会、家庭部会、非行防止部会）において、具現化に向けての取り組みを進めます。

また、亀山市民に広く情報発信し、市、教育委員会も支援しながら、家庭・地域・園・学校や諸団体、関係機関が、それぞれの立場で連携しながら「目指す亀山っ子像」の実現に向けた取り組みが進められるよう働きかけていきます。

# 「亀山っ子」市民宣言

1. 「おはよう」「ありがとう」のいえる子
2. きまりや交通ルールを守る子
3. 運動や読書に親しむ子
4. 力を合わせて仕事をする子
5. 人やものを大切にする子
6. 未来に夢を持ち続ける子